

B(1) 草原の危機について学ぼう

このプログラムは、これまで阿蘇の草原の素晴らしさや恵みについて学んだ子どもたちが、草原が減少しつつある現状や、今、草原が抱えている問題について学ぶ、「応用編」となります。

■プログラムの概要

阿蘇の草原は、人々が採草や放牧、野焼きを行い、草資源をうまく利用することで守られてきました。しかし、農業形態や生活様式の変化により草の利用が減少し、畜産業の低迷も加わって草原を利用する農家が減ったことで、維持管理が行き届かずヤブになる草原が増えています。

ここでは、私たちに多くの恵みを与え、たくさんの生きもののおすみかになっている阿蘇の草原が直面している問題について知り、草原を未来に引きついでいくために、今、どんな取り組みが始まっているのかを学びます。

【関連する教科】総合、社会、国語

【技能】聞く、考える、まとめる

【実施概要】

- ・所要時間：全5コマ
- ・実施場所：教室
- ・対象：小学校5年生～
- ・実施時期／季節：いつでも

■プログラムのねらい

- ・時代の流れとともに草原が減少している現状を知り、危機感を持つ。
- ・草原が減少していった経緯やその要因について理解する。
- ・草原を守る活動をしている方の話を聞き、自らにとって身近な問題として捉えられるようになる。

■プログラムの流れ

導入

ステップ1（1コマ：教室内導入学習）
草原が減っている！
・草原の現状とそうなった要因を学ぶ。

＜学習のねらい＞

- ・時代の流れとともに草原が減少している現状を知り、危機感を持つ。
- ・地域の暮らしと草原との関わりが薄れたことが草原の危機につながっていることを理解する。

展開
1

ステップ2（1コマ：教室内発展学習）
草原を守る活動とは？
・草原が減少する要因をふりかえり、どうすれば草原を守れるかを考える。
・草原を守る取り組みについて学ぶ。

＜学習のねらい＞

- ・草原が減少している要因を理解し、どうすれば守ることができるかを考える。
- ・様々な草原を守る取り組みが行われていることを知る。

展開
2

ステップ3（3コマ：教室内調べ学習）
取り組みについてお話を聞こう
・草原を守る活動をしている方のお話を聞く。
・聞いた話をまとめる。

＜学習のねらい＞

- ・草原維持活動をしている人から話を聞き、その人の想いを受けとめる。
- ・お話をまとめる中で、自分自身も何かしたいという気持ちになる。

ステップ1：草原が減っている！

1 学習のねらい

- ・時代の流れとともに、草原が減少していった経緯を知る。
- ・地域の暮らしと草原との関わりが薄れたことが草原の危機につながっていることを理解する。

○実施について

- ・所要時間：1コマ
- ・実施場所：教室
- ・対象：小学校5年生～
- ・実施時期／季節：通年

2 準備するもの

＜学校等が用意するもの＞

- ・導入学習用DVD、スライド、紙芝居など
- ・ワークシート

＜子どもたちが用意するもの＞

- ・筆記用具

○講師・スタッフ等

- ・特になし

3 学習の進め方

(1) 阿蘇の草原について、これまで学んできたことをふりかえる (10分)

- ・これまでの学習を質問形式でふりかえり、阿蘇の草原への子どもたちの理解を確認する。
→子どもたちの考えを聞いた上で導入学習用DVDへ

＜質問の例＞

- ・阿蘇の草原について
 - *草原はどんなところか？
 - *どうやって今の草原が守られているか？
 - *自分たちの暮らしにどんな恵みをもたらしているか？ など
- ・管理や利用を止めて草原が荒れ、様々な恵みをもたらす草原が減ってきていることについて
 - *野焼きが行われていない草原の写真を見てどう思うか？
 - *なぜ草原が荒れているのか？ など

(2) 導入DVDを視聴し、時代の流れとともに草原が減少していった経緯を知る (5分)

DVD メニューから「草原の危機」を選択して視聴。

(3) 草原が減っていった要因を考える (15分)

- ・紙芝居を用いて、草原の草をたくさん使っていた頃と今の自分たちの暮らしとを比較しながら、草原が減ってきた要因について考える。

＜疑問・回答例＞

- *草原利用と暮らしがどんな風が変わってきたか？
 - 化学肥料の普及により田畑の緑肥や堆肥として草を使わなくなった。
 - トラクターなど農業の機械化が進み、役牛の飼料としての草が不要になった。
 - 茅葺き屋根がほとんどなくなるなど、生活の中で草を使わなくなった。
 - 畜産業の低迷や高齢化等により、放牧頭数や農家の数が減少して草原の利用が減った。
- *なぜ野焼きなど草原維持管理の継続ができなくなっているのか？
 - 放牧が減ったり、草を利用しなくなったので、野焼きをする必要がなくなった。
 - 畜産農家の跡を継ぐ人が減って高齢化も進み、草刈りや野焼きなどの作業ができなくなった。
 - 地域の人々が草原に行く機会が減り、草原との関わりが希薄になった。

(4) 草原が減少するとどんな困ったことが起こるのかを想像し、ステップ2につなげる

(15分)

- ・草原が荒れて、減少していくとどうなるか想像して、話し合う。

※出てきた意見を黒板に書き、問題を整理して、次の学習につなげていく。

(意見の例)

- きれいな草原の景色がなくなる
- 動物のすみかがなくなる、きれいな花が見られなくなる
- 阿蘇に来る観光客が減る
- おいしい牛肉が食べられなくなる など

- ・学習の感想、疑問に思ったこと、草原の減少を止めるためのアイデアなどを、各自ワークシートに記入する。

4 配慮事項

- ・草の利用が減っていることについて、自分たちの暮らしと重ねあわせて考えることで、草原について子どもたちの関心を高めることができる。

ステップ2：草原を守る活動とは？

1 学習のねらい

- ・草原が減少している要因を理解し、どうすれば守ることができるか考える。
- ・様々な草原を守る取り組みが行われていることを知る。

○実施について

- ・所要時間：1コマ
- ・実施場所：教室
- ・対象：小学校5年生～
- ・実施時期：通年

2 準備するもの

- <学校等が用意するもの>
 - ・導入学習用DVD
 - ・ワークシート
- <子どもたちが用意するもの>
 - ・筆記用具

○講師・スタッフ等

- ・講師/スタッフ：特になし

3 学習の進め方

(1) ステップ1の学習をふりかえり、どうすれば草原を守れるのかを考える (10分)

- ・草原が減少してきた要因と、草原が減少するとどんな困ったことが起こるのか、ステップ1でみんなが考えたことを確認する。
- ・どうすれば草原の減少を食い止め、草原を守れるのか、減少要因に対してどういうことをしたらいいのか、思ったことを挙げていく。
 - *もっと草原の草を利用するために何ができるか（例：牛の数を増やす）
 - *野焼きなどの維持管理をどうしたら続けられるか、など

(2) 草原を守るための具体的な取り組みを知る (20分)

- ・阿蘇の草原を守っていくために、地元や地域外の人々により様々な取り組みが始まっている。
- DVD** メニューから「草原を守るとりくみ」を選択して視聴。
- ・DVDに出てきた取り組み、それ以外の取り組みも含めて、写真や資料を見せながら紹介する。

<取り組みの例>

- * 預託放牧の受け入れなど放牧牛を増やすための取り組み
- * 野焼きや輪地切りの作業を都市の人々が手伝うボランティア活動
- * あか牛肉の消費を増やすための活動（ブランド化など）
- * 草原の草を使った農業・農産品づくり
- * 草原の素晴らしさや現状を沢山の人が知ってもらう活動（エコツーリズムなど）
- * いろいろな活動をする人たちが集まって知恵を出し合い、協力しながら取り組みを進める仕組み（阿蘇草原再生協議会など）

- ・知っている活動があるか、もっと詳しく知りたいと思う活動はどれ？

(3) お話を聞く準備 (15分)

- ・ステップ3で、草原を守る取り組みを行っている方からお話を聞くため、取り組み内容についてもっと知りたいことや聞きたいことなど、質問項目を挙げてワークシートに記録し、準備をする。
- ⇒ステップ3で聞くお話の内容を、学習レポートにまとめるイメージで準備を進める。

4 配慮事項

- ・ステップ3での講師による話の際に質問ができるように、予め疑問に思ったことなどをまとめておくことで情報が整理され、明確な質問ができるようになる。
- ・子どもたちのワークシートをいったん回収して、質問事項を整理し、ステップ3の講師に事前にお渡ししておくが良い。

5 展開や応用

- ・講師の方のお話は、子どもたちからのインタビュー形式で進めることも可能。その際は、インタビューの準備のための時間を別に1コマ確保すると良い。

参考

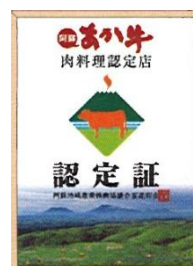
<草原を守るための取り組みのイメージ>



預託放牧の受け入れなど放牧牛を増やすための取り組み



野焼きや輪地切りの作業を都市の人々が手伝うボランティア活動（阿蘇グリーンストック野焼き支援ボランティア）



あか牛肉の消費を増やすための活動（あか牛料理認定店制度）



草原の素晴らしさや現状を沢山の人が知ってもらう活動（エコツーリズムなど）



草原の草を使った農産品づくり（阿蘇草原再生シール生産者の会）

いろいろな活動をする人たちが集まって知恵を出し合い、協力しながら取り組みを進める仕組み（阿蘇草原再生協議会など）



ステップ3：取り組みについてお話を聞こう

1 学習のねらい

- ・草原維持活動をしている人から話を聞き、その人の想いを受けとめる。
- ・お話をまとめる中で、自分自身も何かしたいという気持ちになる。

○実施について

- ・所要時間：3コマ
- ・実施場所：教室
- ・対象：小学校5年生～
- ・実施時期／季節：通年

2 準備するもの

＜事前に準備すること＞

- ・草原保全に取り組んでいる方への依頼と日程調整

＜学校等が用意するもの＞

- ・講師の必要に応じてプロジェクターなどの機材
- ・ワークシート

＜子どもたちが用意するもの＞

- ・筆記用具

○講師・スタッフ等

- ・講師：草原保全に関連する活動を行っている方（1～数名）
- ・スタッフ：コーディネーター

3 学習の進め方

(1) 草原を守るための活動についてお話を聞く（30分×2人）

- ・講師の方から、ご自身が取り組んでいる活動についてお話いただく。

※ここでは2人程度の講師を想定

＜お話いただく内容（例）＞

- * 取り組みの経緯や背景、具体的な活動内容
- * 活動していく中で苦労していること、うれしいこと
- * これからの活動展開、草原を守っていくことへの思い
- * 子どもたちへの期待 など

(2) 子どもたちから、講師の方への質問（15分×2人）

- ・講師の方のお話を聞きながら浮かんだ疑問や、あらかじめ整理しておいた疑問を質問する。

～休憩はさむ～（10分×2回）

(3) まとめと発表（45分）

- ・講師から聞いたお話の内容や感想をワークシートに整理する。
 - * 講師の取り組みについて興味を持ったことや疑問に対する回答など
 - * お話を聞いて自分もやってみたいと思った草原の保全活動など
- ・まとめた内容を発表して共有する。

4 配慮事項

- ・できれば、ステップ2で子どもたちの関心が高かった活動を行っている方に講師として来て頂くといい。また、複数の方に講師をお願いする場合は、タイプの違う活動を行っている方をお願いするのが効果的。
- ・事前に、子どもたちの関心や質問事項をお伝えしておくとうまく授業が進められる。

5 展開や応用

◇興味のあることが似ている班に分かれて、それぞれに講師にお話をしていただく。

- ・これにより1コマ(45分)でも複数の講師のお話を伺うことができる。
- ・それぞれ1人の講師のお話しか直接聞けなかった場合は、各班のまとめの発表を全体で行うことで、他の班の内容も共有する。

◆実施協力団体等

- ・(例)阿蘇草原再生シール生産者の会、(公財)阿蘇グリーンストック、NPO 法人九州バイオマスフォーラム、阿蘇地域振興局など(講師としての協力)

◆講師の紹介

- ・「阿蘇草原キッズ・プロジェクト」ワーキンググループ事務局が紹介します。

◆参考資料

- ・「ついつい子供に伝えたい 阿蘇の草原ハンドブック」/環境省九州地方環境事務所
- ・「阿蘇の草原ワークブック」/環境省九州地方環境事務所